# 第 81 回紫友まち歩き

## 小田原宿場まち歩き

今回のテーマは、①東海道沿いの宿場や明治、大正の旧居を楽しむ、②秀吉の一夜城跡から小田原城を展望、その後、小田原城天守から石垣山一夜城跡を展望、③小田原文学館への桜並木や小田原城の桜を楽しむ、です。当初の予定を 1 週間早めて、満開の桜を楽しむことができました。

**日時： 2018 年 3 月 31 日(土)**

集合時間 ：9 時 45 分

集合場所：東口バス停 1 番線前

参加者：16 名参加

案内人：小林偉昭 017

懇親会：「田むら銀かつ亭」

懇親会参加者：14 名

歩いた歩数：14,200 歩

**＜まち歩き＞:**

**■まち歩き行程**

観光遊覧バス「うめまる号」一日乗り放題 500 円で小田原駅出発⇒松永記念館・老欅荘⇒古稀庵⇒一夜城跡⇒小田原漁港で昼食→小田原文学館→ういろう（外郎博物館）→静閑亭→報徳二宮神社→小田原城→「田むら銀かつ亭」にて懇親会　　⇒：バス移動

**＜スタート＞**

写真を見ながら楽しんでください。

9 時 45 分に東口バス停 1 番線前に集合。各自うめまる号の一日乗車券を購入して、1 名遅れるため 15 名がバスに乗り込む。10 時出発。ボランティアの説明付きでした。

**① 松永記念館裏の老欅荘：**

10 分ほどで旧東海道沿いのバス停に着く。

きれいな水の流れる小田原用水を右手に見て、まっすぐ 5 分ほど歩く。

桜は満開。二つの茶室がある池を回って、古稀庵に向かう。

途中、老欅荘の名前のもととなる欅の大木を見上げる。電力王だったためか、黒部からの巨石も置かれている。

残念ながら今日はお茶会で貸し切りのため、建物の中には入れなかった。現地ガイドの説明を聞きながら外観を楽しむ。四角い瓦や遠近法を取り入れた小道などを教わる。

＜解説＞松永安左ヱ門（耳庵。1875～1971）は実業家にして茶人。明治末期頃より電力事業に携わり、大正年間には東邦電力（九州電力・関西電力・中部電力のルーツの一つ）を設立。実業界に重きを為し「電力王」と呼ばれた。還暦を境に茶に親しむようになる。

② 古稀庵：

遅れていたＴ氏が入口で待ったいた。これで全員集合。花（ミツマタや大根の花）や竹林の細い道を進む。

古稀庵は日曜日だけ開園のため、門だけを見学する。

＜解説＞山縣有朋が、明治 40 年(1907)、70 歳のときに構えた別荘。相模湾と箱根山を借景に築造された。「古稀庵」は、有朋の所有であった目白椿山荘・京都無隣庵とともに、近代日本庭園の傑作といわれている。このような説明もある：古稀庵から豊臣秀吉が築いた石垣山一夜城を眺められると有朋は自慢していた。共に足軽という下級武士から頂点までのぼりつめた立志伝中の人物で、秀吉が果たせなかった大陸での戦の勝利を日清、日露戦争で指揮を執り果たしたことから、自らが秀吉にも劣らない人物であると自負していた。

バス停の前には醤油醸造業をしていた内野邸がある。本日は休館。「なまこ壁」や「石造りアーチ」を眺める。

③ 石垣山一夜城跡：

10 分ほどでバス停に着く。行きは、緩い坂を 10 分ほど登って行く。野面積みの石垣があちこちに残っている。

展望台で箱根の山並みを見る。

ここが目的の場所ではないので、案内人は小田原城を展望できる場所に急ぐよう声をかける。全員が小田原城を確認できたので良かった。

左の方に見える。拡大すると下の写真。

帰りは、石がごつごつとしている急な坂道を降りていく。帰りは 5 分。

40 分での見学でした。バスを待っていると、一夜城ヨロイヅカファームで、甘いみかん（湘南ゴールド）をすでに買ってきている人もいた。（甘く、おいしかったとの事後報告）

＜解説＞

石垣山は、本来「笠懸山」と呼ばれていたが、天正 18 年(1590)豊臣秀吉が小田原北条氏を水陸 20 万の大群を率いて包囲し、その本陣として総石垣の城を築いたことから「石垣山」と呼ばれるようになった。実際にはのべ 4 万人が動員され、天正 18 年 4 月から 6 月まで約 80 日間が費やされた。秀吉は、この城に淀君ら側室や千利休、能役者を呼び茶会を開いたり、天皇の勅使を迎えたりした。この城は、関東で最初に造られた総石垣の城で、石積みは近江の穴太衆による野面積みといい、長期戦に備えた本格的な総構えであったといわれ、度重なる大地震にも耐え、今日まで当時の面影が大変よく残されている。

### ④　小田原漁港の魚市場食堂：

10 分ほどでバス停に着く（11 時 50 分着）。小田原漁港の魚市場の 2 階にある食堂の待ちに並ぶ。階段下から並ぶ。ワインを持参してきた人がいて、皆でワインを楽しむ。

待っている間に何を頼むかを検討するのも楽しみだっ

た。30 分ほど待って、ようやくチケットを買うことができた。

食堂は自由席で、空いているところに各自座る。缶ビールも売っているので、飲む人が多い。

案内人は小田原丼を頼む。ご飯が見えない。

多くの人がおいしいと言ってくれたので案内人も安心した。バス内での説明にあった小田原漁港のデザイン燈台の写真を撮る。

1 時頃に次に向かう。

＜解説＞

小田原・早川であがる新鮮な魚を気軽に楽しめる小田原漁港内「魚市場食堂」。おすすめの魚は食券、店内の張り紙でお知らせしています。

⑤小田原文学館（田中光顕伯爵の別邸）：

ここからはバスには乗らないまち歩きになる。早川を渡り、10 分ほどで西海子（さいかち）通りに着く。ここは道の両側に桜並木が続いている隠れ名所。

桜並木をバックにした集合写真を撮る。

桜並木を楽しんで、小田原文学館に向かう。庭でしばらくゆっくりして、田中光顕伯爵の別邸を眺める。白秋童謡館は改修中でした。

＜解説＞

閑静な住宅街、西海子（さいかち）通りに田中光顕別邸であった小田原文学館がある。田中光顕は天保 14（1843）年、土佐藩に産まれ、土佐勤王党に参加したが、弾圧が始まると土佐藩を脱藩した。このとき浜田辰弥から田中光顕と名前を変え長州藩を頼って陸援隊に参加した。坂本龍馬、中岡慎太郎の暗殺現場に一早く駆けつけ、中岡死後の陸援隊を統率。維新後は、陸軍中将、宮内大臣などを勤めた。この洋風建物は、三階建の本館と木造平屋建の管理棟よりなり、ともに屋根はスペインから輸入した瓦を用いたスパニッシュ瓦葺。

### ⑥　ういろう（外郎博物館）：

少し疲れてきている人が出てきた。5 分ちょっとで外観がお城のようなういろう（外郎博物館）に着く。

説明員の説明に相槌を入れながら聞く人がいて、分かりやすかった。お菓子のういろうや薬（仁丹状の）のういろうを購入する人も数人。博物館（蔵を利用）内は、写真不可でした。

＜解説＞

明治十八年築のお蔵を利用した小さな博物館を平成十七年夏に開設した。初祖 陳延祐より六百余年、二十五代にわたり代々伝統を守り続ける外郎家は、五代目 定治が当地に移住してから五百年が経った。 独特の店構えの理由、「ういろう」の名の由来、お菓子と薬の起源、歌舞伎十八番「外郎売」との関係などを、紹介している。入館無料。

### ⑦静閑亭（黒田長成侯爵別邸）：

途中、秋山真之が、最後をこの地で迎えたという対潮閣跡を見学し、急な坂道を登って行く。静閑亭に 15 分ほどで着く。

静閑亭の 2 階から相模湾を眺める。

＜解説＞

清閑亭は、明治時代に活躍した黒田長成(ながしげ)侯爵の別邸として、1906 年(明治 39 年)に建てられた。晴れた日は母屋から真鶴半島や大島を望む相模湾や箱根山を一望できる。建物は、格式ばらない数寄屋風の造りで、

平屋と二階家が連なっている。

### ⑫報徳二宮神社

すぐそばの報徳二宮神社に行く。「経済なき道徳は戯言であり 道徳なき経済は犯罪である」の説明には納得。

お参りの人が大勢並んでいた。

＜解説＞二宮尊徳は報徳社を設立して農村の救済・教化運動を行っていたが、尊徳が安政 3 年（1856 年）に亡くなった後も報徳社は存続し、関東・東海地方を中心に活動を行っていた。明治 24 年（1891 年）に尊徳に従四位が贈られると、報徳社員の間で尊徳を祀る神社創建の動きが起き、明治 27 年 4 月 15 日、尊徳の生地である小田原の小田原城址内に鎮座した。

### ⑬小田原城見学

神社を通って、小田原城に登って行く。15 時近くに満開の桜に囲まれた小田原城の登り口に着く。

希望者は、天守閣に登って行く。500 円。いろいろな展示があるのでその見学も含めると 1 時間ほど必要。今回の目的である小田原城天守より石垣山の一夜城跡を眺める。桜並木が道の存在を示し、一夜城跡の位置をどうにか確認できた。

16：00 過ぎに再集合して、懇親会場に向かって歩いていく。小田原城の桜も満喫できた。

＜解説＞小田原城は南に相模灘、東に酒匂川、西と北には箱根山という要害堅固な城で、四代目北条氏政の時代には上杉謙信や武田信玄の攻撃を退け、難攻不落といわれていた。しかし天正 18 年（1590 年）、豊臣秀吉の軍勢による包囲戦の結果落城。北条氏の領地は徳川家康に与えられ、家康の家臣だった大久保氏が城主となる。その後は幕府の直轄となり、維新後の明治 3 年（1870 年）に廃城となった。昭和 35 年（1960 年）、小田原市政 20 周年の記念事業として、天守閣が再建された。さらに常盤木門、住吉橋、銅門が再建され、平成 21（2009）年に馬出門が再建されている。現在の天守閣は、1960 年に再建されたもの。再建から 55 年余り、平成の大改修を終えた天守閣が、2016 年 5 月 1 日に公開された。

⑭懇親会：

5 時ちょうどにしかお店に入れない。それまで小田原の名物をお土産に買う人が多い。5 時に 14 名がそれぞれのテーブルに着く。沢山飲むテーブル、普通に飲むテーブル、食事が主体のテーブルなど。この店の名物豆腐かつ煮単品は、おいしかったとの評価。

7 時近くに解散。

問題発生。お店の人が携帯（スマホ）を持ってきて、忘れ物だという。さー誰のだ？U 氏のだ。連絡が来るだろうと 4 名はそばの炉端焼きに行く。しばらく飲んでいると携帯に電話が入る。U 氏は携帯がないのをどこかで気づき、一緒に帰っていた人の携帯を使って連絡してきた。平塚から戻ってくるという。連絡できないので 30 分過ぎくらいに小田原駅の改札で会おうということになる。4 人はしばらく飲み続ける。また携帯が鳴る。今改札にいるという。幸いに、買い物好きの女性二人の帰りに偶然遭遇したようで、連絡をしてきた。無事に携帯を渡すことができ、良かった、良かった。女性二人は小田急のロマンスカー乗車のプレゼントをもらえたようでした。待っていた男たちにはどのようなプレゼントがあったかは、まだ確認できていない。

お疲れさまでした。